

ひたちなか 埋文だより

37



磯崎東古墳群の勾玉 2011年度の発掘調査で磯崎東古墳群の1号墳と呼んだ円墳の石室内からは、まがたま勾玉9点、中央に切り込みのある管状の玉7点、ガラス小玉53点、土製の小玉7点の玉類が検出されています。勾玉は全て、メノウを加工したものです。群馬県太田市の塚廻り3号墳から出土した巫女埴輪を参考つかまわに、勾玉と管状の玉を交互に配列させて首飾りを復元してみました。顔面のペイントも、同じ埴輪みこになら倣ったものです。(2012.8.24 撮影)

CONTENTS	速報! 鷹ノ巣遺跡の調査	
	「出会い、別れ、そして夢考古学の旅路」 第9回 勝田市の遺跡の調査(2) (川崎純徳)	
	遺跡ガイド ひたちなか市の古墳(序説) (稲田健一)	
	1ケース・ミュージアム 23 平成23年度市内遺跡発掘調査速報展	
	1ケース・ミュージアム 24 須恵器の土と神の山	横穴墓を歩く⑧ 矢本横穴墓群 (佐藤敏幸)
	遺跡めぐり 福島県いわき市歴史探訪	ひたちなか市の遺跡⑩ 勝田二中学区編 改訂版
歴史の小窓⑨ やっぱり肉が好き—鉄鏃	虎塚古墳花便り⑨ ハマナス	ほか

速報！ 鷹ノ巣遺跡の調査

鷹ノ巣遺跡は、ひたちなかインターチェンジのすぐ東側の台地上に位置しています。この調査は、市営たかのす霊園拡張に伴うもので、鷹ノ巣遺跡では1992年度・2005年度につづき3度目の調査となります。調査は5月12日から7月11日まで実施しました。調査では、古墳時代後期の住居跡2基（第28・30号住居跡）と奈良時代の住居跡1基（第29号住居跡）、時期不明の溝2条を確認しました。第28号住居跡は、一辺8.0mの大型住居跡で、古墳時代としては鷹ノ巣遺跡で最大の規模です。また、当住居跡からは、完形の甕や甑、杯などの土器が多数出土しました。なかでも、入口部分に一列に置かれた杯は注目されます。ここでは、調査の成果を速報としてお知らせします。



鷹ノ巣遺跡調査の歴史

《第1次調査》

調査期間：1992年11月4日～1993年
3月17日

遺構：住居跡28基（古墳～平安時代）

《第2次調査》

調査期間：2005年7月29日～2006年
2月28日

遺構：住居跡40基（弥生～平安時代）

主な出土遺物：

市内初出土の弥生時代のガラス小玉や奈良時代の文字瓦。



第29号住居跡

第29号住居跡は、奈良時代前半の住居跡です。出土遺物は非常に少ないのですが、完形の須恵器の蓋が出土しました。遺物の時期から、台地の対岸にある十五郎穴横穴墓群との関係が窺える住居跡です。

第 28 号住居跡



炭化して残った屋根の材



カマドの西側からは、完形の甕と甑が出土しました。



出入口は住居から張り出しています。そこには、杯が横一列に並べられていました。このような出土は非常に珍しいことです。



一辺 8.0m もある住居跡は、鷹ノ巣遺跡で古墳時代のものとしては最大です。



カマドは、住居を構築する際に両袖の部分掘り残し、そこに後から粘土を貼り付けるという工法を用いています。

第 30 号住居跡

第 30 号住居跡は、一部が 2005 年度に調査を終えていて、今回は残りの部分の調査でした。調査では、カマドの周りから完形の甕や杯が出土しました。杯は伏せた状態で置かれています。





この展示では、ワークショップ「ふるさと考古学」の「土の考古学」の参考展示として、市内から出土した奈良時代の須恵器の土と神の山との関わりについて考えてみました。

ひたちなか市から出土する須恵器は、多くが水戸市木葉下窯跡群産ですが、すこしだけ土浦市新治窯跡群産も出土しています。木葉下窯産は粘土に海綿骨針とチャートを含み、新治窯産は白雲母を含むのが特徴です。そうした特徴を観察することで産地が推定できます。

須恵器窯のあるところは、木葉下窯が朝房山南麓、新治窯が筑波山南麓になります。二つの山は、『常陸国風土記』や『万葉集』に神の伝説が記されているので、奈良時代に神の山として人々にあがめられていたことがわかります。

神の山の土で焼き物を焼くと「うつし」といは、どのような意味があったのでしょうか。『日本書紀』には、敵と戦おうとしている神武天皇に



展示のようす

対して、神が次のように告げる場面が出てきます。「天の香具山の社の中の土を取り、土師器甕をつくつて神をお祭りしなさい。そのようにすれば敵を降伏させることができます。」つまり神の山の土で焼き物を焼けば、土器に霊力が宿り望みがかなえられるというのです。

このように、神の山が生み出す産物に神の霊力が宿ると古代の人々は考えたのではないでしょう。新治窯跡群産の須恵器は、粘土中の白雲母がキラキラと光っています。そうしたキラキラ光る須恵器に、古代の人々は筑波の神の力を感じ、幸いをもたらす器であるとみていたのではないかと想像するのです。(佐々木義則)

歴史の小窓 その九

やっぱり肉が好き——鉄鏃

ひたちなか市武田遺跡群からは多くの鉄鏃が出土しています。写真は、武田西塙遺跡七五号住居跡の壁際から完全な形で出土した八世紀の鉄鏃です。もちろん矢羽を付けた矢柄に装着して矢として用いたものでしょう。鉄鏃は奈良・平安時代を通して一定量出土しますが、鹿・猪・鴨といった鳥獣類の肉を得るための狩猟具として用いられたものが多かったためであろうと考えられています。



古代末の絵巻物である粉河寺縁起絵巻には、木の上から鹿を狙い撃ちしている場面が描かれています。民俗学者の宮本常一は、ケモノ道に射場を設ける待ち伏せ猟である「ウジマチ」について、伝統的な狩猟方法であった可能性があると述べています。つくば市熊の山遺跡三〇八号住居跡の竈から鹿の骨が出土したことや、常陸国風土記の記述などからみて、古代人もやっぱり肉が好きだったのではないのでしょうか。(佐々木義則)

参考文献 宮本常一 一九八一「ウジマチ」『絵巻物に見る日本庶民生活誌』(中公新書六〇五) 中央公論社

福島県いわき市歴史探訪

— 横穴墓を訪ねて —



二〇一一年度は、ひたちなか市の「十五郎穴横穴墓群出土支群第三五号墓」の調査において、大きな成果がありました。それは、未開口の横穴墓から五七個体もの須恵器や県内で二例目となる大刀、金銅製の金具のついた貴重な刀子等が出土したことです。中でも、刀子は奈良県の正倉院に収められているものと似たもので、発掘調査による出土は日本で初めての事例と考えられます。

今回の調査のように、横穴墓からは大変貴重な遺物が出土する例がみられます。特に、福島県いわき市の横穴墓からは、大刀や馬具等の非常に豪華な副葬品が多数出土し、話題を集めています。

そこで今回の遺跡めぐりは、いわき市の横穴墓から出土した遺物を多数展示している、いわき市考古資料館と、現在調査中の餓鬼堂横穴墓群、さらにいわき市石炭化石館を訪ねました。見学日は二〇一二年五月一八日で、参加者は三〇人でした。考古資料館では、櫻村友延館長のご説明で、装飾横穴墓の中田横穴墓から出土した豪華な馬具などを見学し、横穴墓からもすばらしい遺物が出土することを感じていただきました。また、餓鬼堂横穴墓群では、雨の中、外から全体を見学し、ひたちなか市ではみられない

高い場所に位置する横穴墓に驚いたことでしょう。

今回の遺跡めぐりで、いわき市の横穴墓の世界を満喫していただけたと思います。(稲田健二)



多数の縄文土器も見学



いわき市考古資料館では、中田横穴墓の出土遺物をはじめとして、白穴横穴墓群の豪華な飾りのついた大刀や、八幡横穴墓群の全国でも希な透彫金具、小申田横穴墓群の飾り弓など、横穴墓から出土した貴重な遺物を数多く見学することができます。



石炭化石館では恐竜を見学



餓鬼堂横穴墓群は、薄磯海岸を望む南側斜面に位置しています。横穴墓が造られた場所は、海面から約8～20数mも高い位置にあります。調査は2005年度から始まり、31基の横穴墓が調査されました。この調査では、装飾横穴墓が確認されたり、大刀や鏡などの多くの遺物が出土しています。



餓鬼堂横穴墓群を見学する参加者のみなさん



速報展 ひたちなか市では、毎年一〇か所前後の発掘調査が行われます。これらのほとんどは緊急発掘調査といって開発行為、おもに個人住宅の建設のために行われます。開発が行われる場所が遺跡内にある場合、まず試掘調査を行い、遺構があるか否かを確認します。確認された遺構が開発によって壊れてしまう場合は本調査を行います。試掘調査・本調査の結果は毎年『ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書』として報告し、図書館にも納められますが、その時に出土した遺物はあまり市民の皆さんの目に触れる機会がありません。そこで、展示前年に行われた調査結果の一部を速報展としてご紹介する機会を昨年から作り、今年は二回目です。

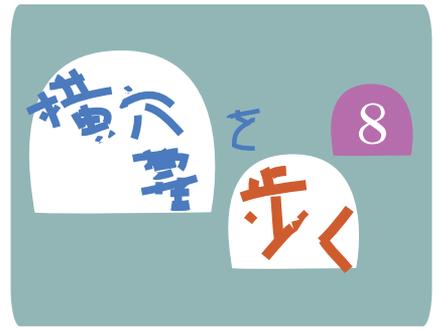
展示では平成二三年の調査の中から、**畠ノ原遺跡**の縄文時代草創期の土器片、**岡田遺跡**出土の**ネズミ**に**齧**られた縄文時代の土器片、**三反田****蜷塚**遺跡出土の古墳時代の杯・手づくね土器を

ご紹介しました。縄文時代草創期の資料は大変少なく貴重です。『埋文だより』第二号でご紹介した原の寺遺跡出土の縄文土器はその後の調査で早期の土器であることがわかりました。そのため、今回出土した**畠ノ原遺跡**の土器が市内初出土の**爪形文土器**になります。三反田**蜷塚**遺跡の手づくね土器は、非常に珍しく市内には類例がありません。市内から出土した手づくね土器と合わせて展示をすることで、どんな違いがあるのか皆さんにみていただきました。また、見学された皆さんに「この土器は何か」についてアンケートをとりました。「子どもが作ったもの」「つぼみ」「小さい石がくつついたつぼ」「花模様の化粧品入れ」など多彩な意見をいただきました。皆様ご協力ありがとうございました。

常設展示へ 畠ノ原遺跡出土の爪形文土器は、市内の縄文時代草創期を知る貴重な資料として常設展示しています。
(菊池順子)



審査員特別賞 (2012.8.24)



宮城県東松島市
矢本横穴墓群

佐藤 敏幸

(東松島市教育委員会)

東松島市史跡矢本横穴墓群は仙台市の北東約四〇kmの太平洋岸、東松島市矢本に所在する。七世紀中頃から九世紀初めまで営まれた横穴墓群である。仙台湾を臨む標高三〇m前後の急斜面に長さ一・五kmにわたって分布し、その数は二百基を超えるものと予想される。宮城県北部は横穴墓の北限分布域にあたる。

矢本横穴墓群は、昭和四三年、四四年、平成一六年～二十一年まで六五基の横穴墓が調査されている。発掘調査後土のうで閉塞し、現在は開口していない。

出土した遺物は土師器、須恵器の土器、直刀・刀子・馬具の鉄製品、金銅製耳環・勾玉・管玉・琥珀玉の装飾品、人骨などがある。発掘調査の結果、いくつかの重要な発見があった。ひとつは横穴墓の形態が羨道部と玄室の境の玄門で比高差一mほどの段差が認められ



矢本横穴墓群全景



墨書土器



遺物出土状況



横穴墓内人骨の出土状況

る横穴墓が多数あり、東上総地方で流行する「高壇式横穴墓」に類似するものがあつたことである。東北地方の横穴墓群には高壇式横穴墓に類似するものは認められないことから、上総地方との関係が注目される。

もうひとつはコンパスによる二つの円文を描いた線刻壁画（二八号墓）が発見されたことである。装飾横穴墓としては日本でも最北地域に位置するものとして注目された。

三つめは出土した八世紀初頭頃の須恵器杯の底部に「大舍人」と墨書されたものがあつたことである。「大舍人」の墨書土器の発見は、律令国家と蝦夷支配を考える上で重要な発見となった。

四つめは出土遺物の中に、静岡県湖西窯跡群

で生産された須恵器が多数認められたことである。東海産須恵器の流通する北限域であるとともに、海を媒介とした交流が推定されるようになった。

五つめは埋葬人骨を分析した結果、東北北部の形質に近い人骨と東日本古墳時代人に近い形質の人骨が同じ横穴墓に埋葬されていたことである。在地の蝦夷と坂東の人が同じ墓に埋葬された可能性が推定される。

横穴墓の中にはひたちな市十五郎横穴墓群に類似する形態のものも複数あり、羨道に葬送儀礼に使った土器を多数まとめて置くあり方も特徴的である。今後、十五郎横穴墓群との関係も含め、関東地方との交流が明らかになることが期待される。



1990年度の市毛本郷坪遺跡の調査風景。



武田西塙遺跡から出土した旧石器時代の石器。



武田西塙遺跡から出土した古墳時代の子持勾玉。

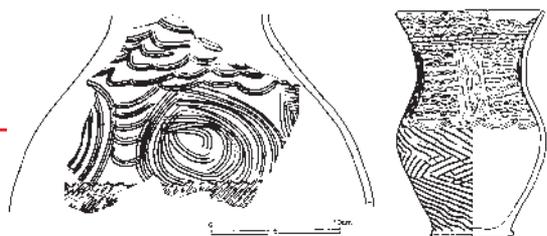


武田石高遺跡第14号住居跡のカマド。甕が2個、架かっています。

武田氏館は、武田地区が「甲斐武田氏の発祥の地である」という説から、整備されたものです。主殿造（しゅでんづくり）の母屋には、甲斐武田氏発祥関係資料や武田遺跡群の出土遺物を展示しています。

- ・開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分）
- ・休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始
- ・入館料：無料
- ・電話：029-276-2525

約800年前
平安時代



津田若宮遺跡（左）と天神山遺跡（右）からは、弥生時代の土器が出土しました。渦巻き文や波状の文様がみられます。



武田西塙遺跡を上から撮影した写真です。人が立っている横に、縄文時代の陥穴（おとしあな）状遺構があります。



武田原前遺跡の第2号掘立柱建物跡は、三面に庇（ひさし）を持つ大型の建物です。時代は、奈良時代初め頃と思われます。



武田西塙遺跡からは、炭化したワラジ（左）とおにぎり（右）が出土しています。ワラジは古墳時代の第249号ピットから、おにぎりは平安時代の第99A号住居跡から出土しました。2つとも全国で出土例が5例ほどしかない珍しいものです。

「ひたちなか市の遺跡(学区編)」シリーズは、今回で完結です。
次号からは「ひたちなか市の古墳」シリーズが始まります(11頁参照)。

ひたちなか市の遺跡 10 (勝田二)

勝田二中学区には、現在、29の遺跡がみつかっています。この中には、旧石器時代の武田西塙遺跡、縄文時代の天神山遺跡、弥生時代の津田若宮遺跡、古墳時代の津田西山古墳群、奈良・平安時代の武田遺跡群などがあります。これらの遺跡の多くが、那珂川流域に存在しています。

遺跡の発掘調査は、1940年代からはじまり、2011年までに83回も実施されています。これらの調査により、この地区では812基もの住居跡が確認されていて、その数は市内で最多です。大規模な調査では、1986～96年度まで調査を実施した武田遺跡群があります。10年あまりの調査によって、弥生時代から平安時代の697基の住居跡などが調査され、旧石器時代から近代までの一地域の歴史が明らかとなりました。



天神山遺跡から出土した縄文時代中期の土器です。1968年の調査で出土しました。



堀口遺跡では、1979年度から12回発掘調査が実施され、50基以上の住居跡を確認しています。古墳時代の住居跡が多く、遺物も多数出土しています。



2011年までに発掘調査された遺跡 (地図上の●印)

- 津田小地区: 津田西山古墳群, 天神山遺跡, 上馬場遺跡, 津田若宮遺跡, 黒袴遺跡, 西中島遺跡, 片岡遺跡
- 市毛小地区: 筑波台遺跡, 市毛上坪遺跡, 市毛下坪遺跡, 市毛本郷坪遺跡, 市毛遺跡
- 堀口小地区: 堀口遺跡, 武田西塙遺跡, 武田石高遺跡, 武田原前遺跡, 武田館跡

2011年までに発掘調査された住居跡の数
津田小地区: 21基 市毛小地区: 50基
堀口小地区: 741基

合計: 812基



『埋文だより』第28号「ひたちなか市の遺跡1 (勝田二中学区編)」に天神山遺跡出土として掲載した縄文土器の写真は、館出遺跡出土の土器でした。そのため、写真を訂正し、さらにその他の学区との体裁を統一し、改訂版として再掲載します。

東中根遺跡と虎塚古墳は勝田市史編纂の上で抜きにできない重要な遺跡であった。この二つの遺跡とも東中根の西野茂信さんの所有地であった。西野さんのご協力を得て調査を進めることとなった。勝田市における発掘調査の中で画期をなしたのは明治大学と勝田市の共同調査として実施した馬渡埴輪製作遺跡であった。馬渡埴輪製作跡の調査中には杉原莊介先生がお見えになり、その際に東中根遺跡を訪れている。石岡一高に就職してから積極的に県内研究者にあつた。そのなかで特に伊東氏とはよく会い、酒を飲んだ。伊東氏の誘いで津田天神山遺跡や黒跨遺跡の調査も行なった。東中根遺跡は早くから研究者に注目されていた弥生時代の遺跡であつた。ここから出土する土器は東中根式土器として茨城の弥生式土器編年の上で重要な位置を占めていた。弥生式土器編年は最古が女方式であり、最後に十王台式がくるとされていた。その間を埋める研究が戦後の弥生研究の課題であつた。そこで提唱されたのが足洗式、東中根式、長岡式であつた。これらを一系統に並べる佐藤次男氏、井上義安氏などの考えに対して伊東氏と筆者は長岡式を別系統として、足洗式、東中根式から十王台式への編年を考え始めていた。そのころ井上氏はそれまで呼称していた「東中根式」から「磐船山式」に呼称を変更し、佐藤氏が同調した。伊東氏や筆者らとの見解の差が生じた。

出会い、別れ、そして夢考古学の旅路

第9回 勝田市の遺跡の調査(2) -東中根遺跡-



川崎 純徳

1971(昭和46)年 東中根和田遺跡第1次調査のテントで休憩中

石岡一高に通う途中、水戸で下車して「天恩ビル」の地下によく滝田宏さんを訪ねた。水戸市役所に伊東さんを訪ねることも多かった。昭和三〇年代はまだ足洗式から東中根式への移行を考える土器として提唱していた「黒跨式土器」が佐藤次男さんらによって地名論争にすり替えられてしまったことをしきりにぼやいていた。佐藤氏は「黒跨」という地名はなく「黒袴」が正しいという。その通りなのだがなぜか当時の勝田市地図には「黒跨」とあつた。伊東氏は黒跨式を東中根式土器成立の重要なカギと考えていたのである。市史の調査に先立って、セットでの東中根式土器の把握を目論んで金子進氏が発掘調査を敢行した。東中根遺跡は白熱した弥生研究の最前線にあつたのである。東中根遺跡の発掘はその絶好の好機であつたのである。そのころ勝田中央公民館の資料展示室で藤本弥城氏に会つた。弥城さんは長岡式土器の胴部縄文に注目して東中根式から十王台式ではなく、長岡式から十王台式への編年にこだわっているようであつた。一九七一年から一九七五年にかけて五次の調査が行われることとなつたのである。東中根遺跡の調査の頃は学生運動の最盛期であつた。当然市町村史編纂に限らず行政発掘は学生運動のターゲットになつていた。筆者の元へもしばしば行政発掘を批判するビラが送られてきたり、面会を求められたりしたが応じることはなかつた。

ひたちなか市の古墳（序説）

稲田 健一



虎塚古墳群第1号墳

見学者の方からは、「ひたちなか市には古墳がいくつあるのですか」や「どこにあるのですか」、「年代は」などといった質問をよく尋ねられます。そこで、そんな疑問に答えるため、ひたちなか市の古墳についてまとめてみたいと思います。今回は序説として市域の古墳の概略を記し、次回からは「ひたちなか市の古墳」というシリーズとして、個々の古墳について紹介していきたいと思います。

数と分布

現在、ひたちなか市で確認している古墳は四五ヶ所あり、その数は一三四基である。また、この数に過去の文献等から消滅した古墳の数も統計すると二五五基となる。

分布は、那珂川とその支流及び太平洋を臨む台地縁辺部に位置している（図1）。細かくみると、太平洋岸に古墳群一・古墳六、那珂川左岸に古墳群八・古墳二、中丸川流域に古墳群一・一、本郷川流域に古墳群二、大川流域に古墳群二、新川流域に古墳群四・古墳一となり、太平洋岸と那珂川・中丸川流域に古墳の大半が分布しており、内陸部には少ない。古墳がもつとも集中する地域は太平洋岸の磯崎東・磯合・入道・三ツ塚・新道古墳群で、消滅したものも含めると一二四基の古墳が確認されている。前方後円墳の分布は、那珂川・中丸川流域に集中する。

墳形と規模

墳形は、前方後円墳・帆立貝形古墳・方墳・円墳があり、円墳が大半を占める。前方後円墳は、太平洋岸で川子塚古墳一、那珂川流域で寺前古墳一・高井古墳群一・三反田古墳群三・津田西山古墳群一、中丸川流域で笠谷古墳群二・大平古墳群三・田彦古墳群一、本郷川流域で虎塚古墳群一、大川流域で銚ノ宮古墳群一の合計一五基が確認されている（図2）。一古墳群で多数の墳形を有するのは虎塚古墳群で、前方後円墳・方墳・円墳がみられる。規模は、市内最大が川子塚古墳の八一mで、

次いで虎塚古墳群第一号墳の五六m、三ツ塚古墳群第一三号墳の五三m、同第一二号墳の五一m、寺前古墳と大平古墳群第一号墳の五〇m、笠谷古墳群第六号墳の四三mがあり、その他は三〇m以下が多い。現在消滅しているため正確な規模はわからないが、大平古墳群の黄金塚古墳は、過去の略測から約六〇mの前方後円墳の可能性がある。

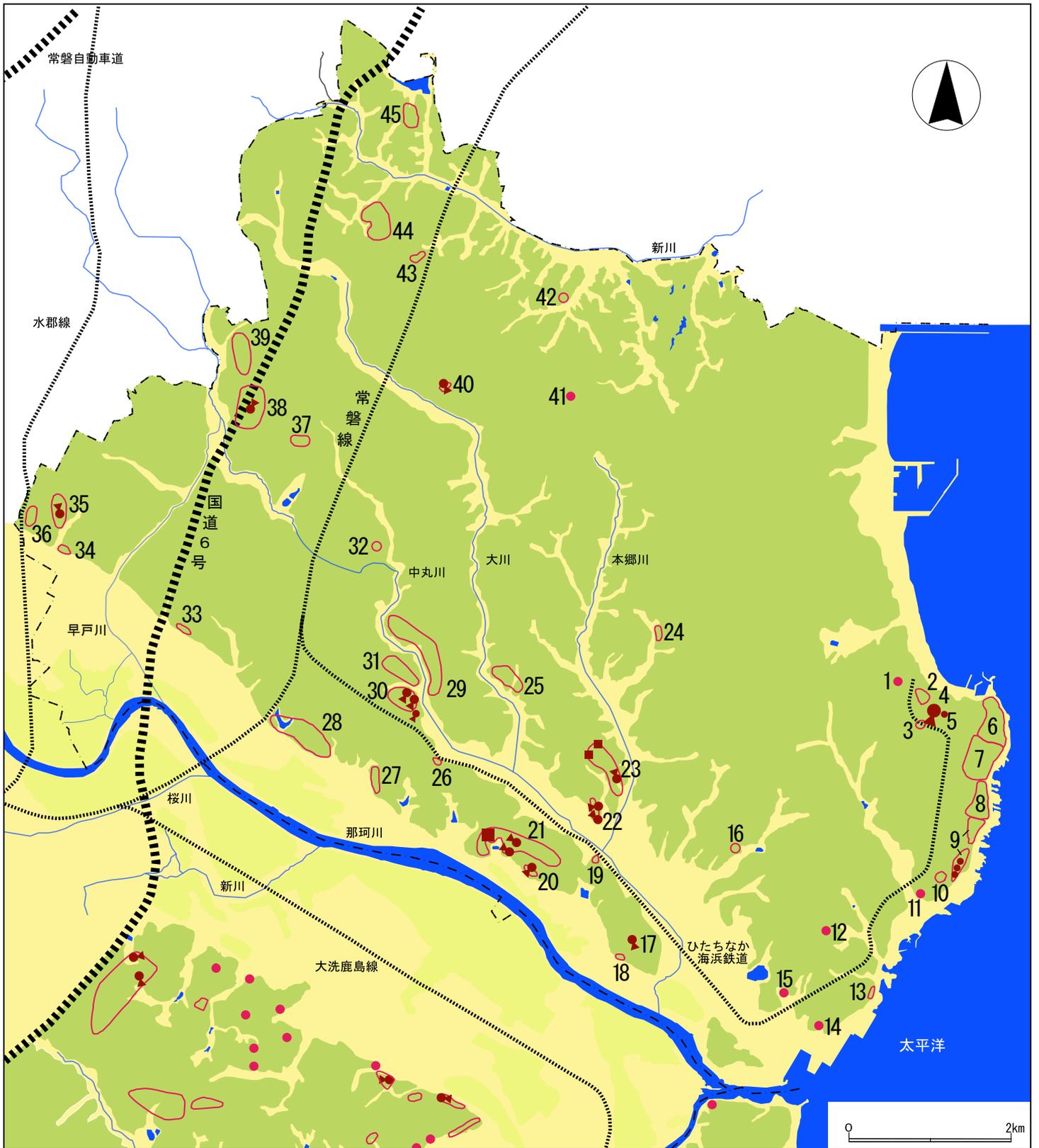
埋葬施設

埋葬施設には、箱式石棺や横穴式石室、土壙、木炭塚等がある。

構造で特異的なものに、虎塚古墳群第四号墳の横穴式石室の刳り抜き玄門が挙げられる。当古墳のような刳り抜き玄門は茨城県内では他に確認できない。県外では、栃木県壬生地域に類似する石室があり、また「出雲型石室」の特徴に合致する点もあることから、当古墳と他地域との関連性が考えられる石室である。

時期

発掘調査が実施されていないものが多く、時期を確定できる古墳は少ない。そのため、発掘調査が実施された古墳や埴輪の有無、埋葬施設の構造等から時期を推定してみた（図3）。市域の古墳で、確実に四世紀の古墳といえるものは確認できない。現時点で最も古い古墳は、壺形埴輪等が出土した三ツ塚古墳群第一二号墳で、五世紀前葉の時期と考えられる。五世紀後半の時期には、市域最大規模の川子塚古墳が出現し、その他に磯崎東古墳群第三〇号墳や入道古墳群第1号墳が当概時期に推定される。



1 愛宕神社古墳群	10 新道古墳群	19 宮前古墳群	28 勝倉古墳群	37 外野開拓古墳群
2 前山古墳群	11 権現塚古墳	20 高井古墳群	29 長堀古墳群	38 田彦古墳群
3 川子塚西古墳群	12 和尚塚	21 三反田古墳群	30 大平古墳群	39 寄居新田古墳群
4 川子塚古墳	13 東塚原古墳群	22 笠谷古墳群	31 殿塚古墳群	40 鉾ノ宮古墳群
5 大穴塚古墳	14 和田ノ上古墳群	23 虎塚古墳群	32 大島古墳群	41 足崎古墳
6 磯崎東古墳群	15 ぼんぼり山古墳	24 馬渡古墳群	33 市毛古墳群	42 寺畑古墳群
7 磯合古墳群	16 部田野古墳群	25 中根中区古墳群	34 天神山古墳群	43 ニツ森古墳群
8 入道古墳群	17 寺前古墳	26 相対古墳群	35 津田西山古墳群	44 老ノ塚古墳群
9 三ツ塚古墳群	18 道理山古墳群	27 金上古墳群	36 津田若宮古墳群	45 孫目古墳群

図1 ひたちなか市域の古墳の分布 (一部水戸市・大洗町を含む)

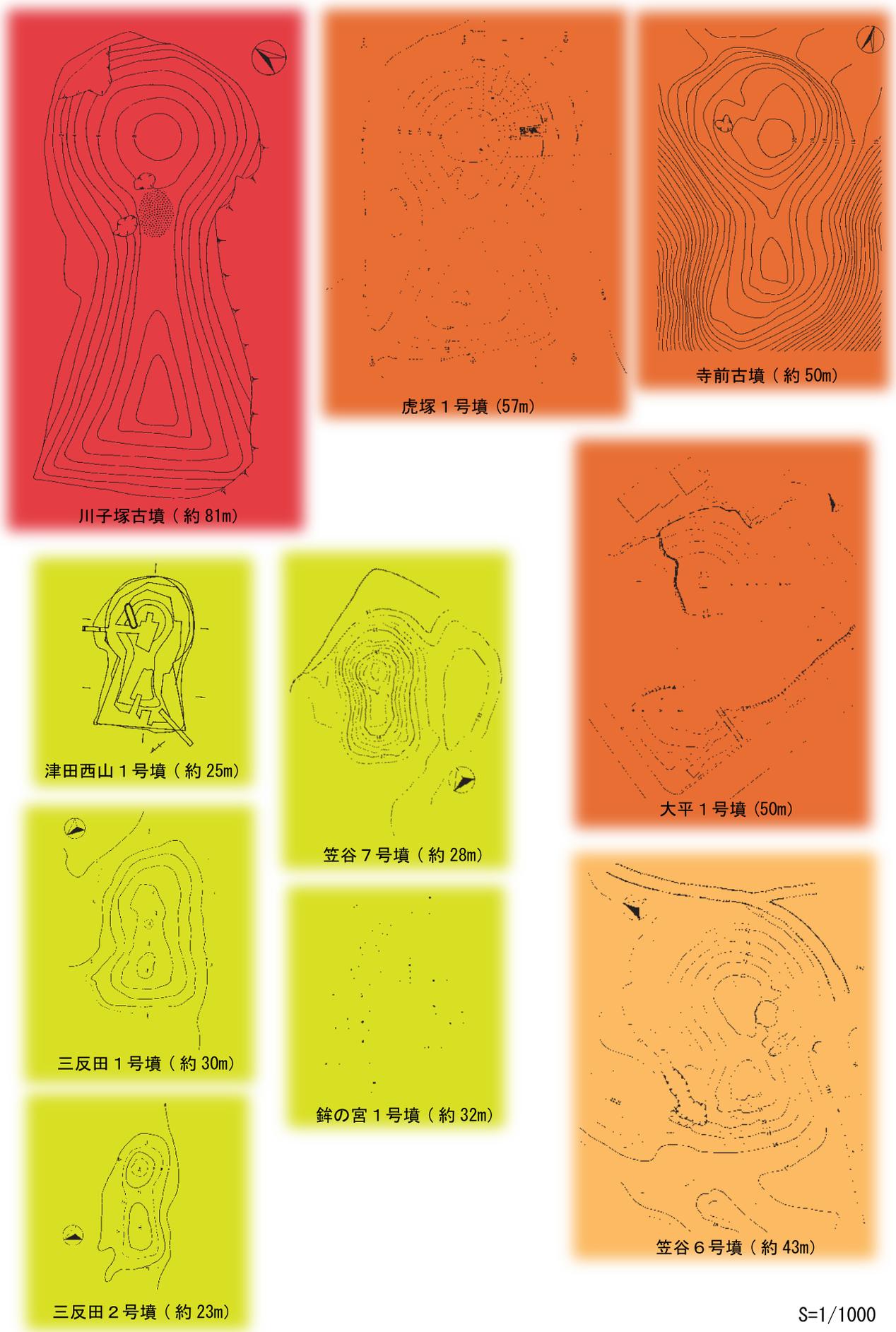


図2 ひたちなか市域の前方後円墳集成

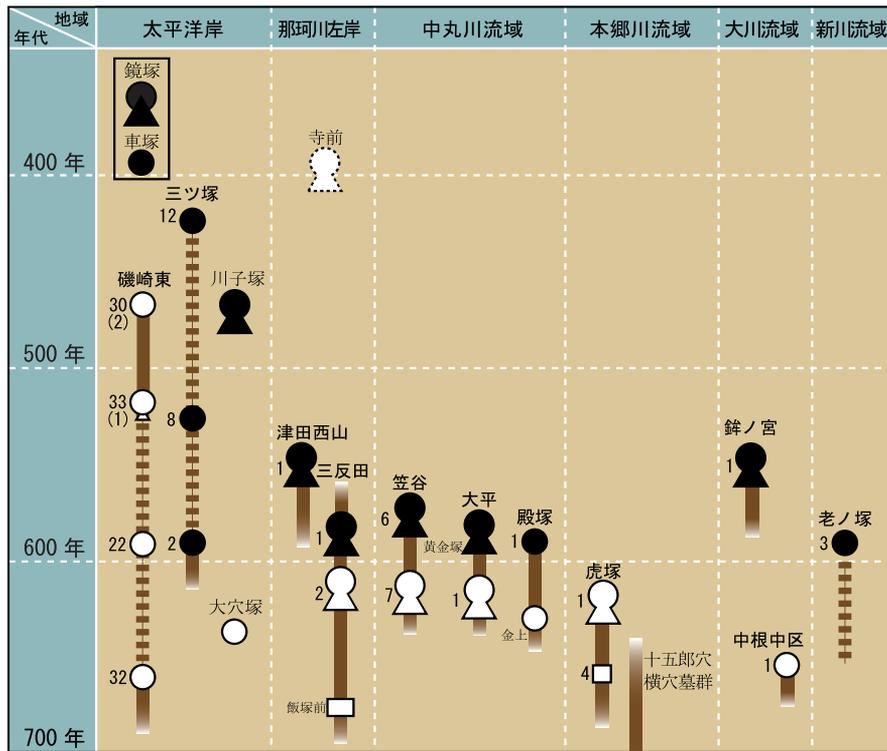


図3 ひたちなか市域の古墳の消長（一部大洗町を含む / 白抜き：埴輪なし）

七世紀になると、新たな場所に虎塚・中根中区・三ツ森・孫目古墳群が造られる。虎塚古墳群は、前方後円墳の第一号墳が七世紀前葉、方墳の第一号墳が七世紀中葉と考えられる。市域で最終時期の古墳と推定されるのは、三反田古墳群の飯塚前古墳である。墳形は、東西約三〇m、南北約二〇m、高さ約三mを測る市域唯一の長方墳である。埋葬施設は横穴式石室である。出土遺物は確認されていないが、墳形や埋葬施設等から七世紀後半の時期と考えられる。

以上のように時期の中心は、六世紀後半から七世紀前半が大半を占める。現時点でもっとも古い古墳は五世紀前葉の三ツ塚古墳群第一二号墳であり、市域で前期古墳は確認されていない。ただし、那珂川河口を望む前方後円墳の寺前古墳は、その立地等から前期古墳の可能性が高い。近隣の地域には、大洗町日下ヶ塚(鏡塚)古墳や、三角縁神獣鏡が出土した水戸市大場の天神山古墳、東海村の真崎古墳群第五号墳といった前期古墳が存在する。時期別の古墳の分布は、五世紀代は太平洋岸にのみ存在し、六世紀中葉以降は各河川流域に分布するようになる。

六世紀後半になると、高井・三反田・笠谷・大平・殿塚・長堀・田彦・老ノ塚古墳群といつた前方後円墳(三反田二号墳、笠谷七号墳、大平一号墳)が存在する。茨城県での埴輪の樹立は六世紀末まで、前方後円墳の築造は七世紀前葉までと考えられている。

まとめ ひたちなか市域の古墳群についてまとめると、古墳群の分布は太平洋岸と那珂川左岸及びその支流の中丸川流域に多く、内陸部は少ない。墳形は大半が円墳で、前方後円墳は一五基確認される。規模は三〇m以下が多く、最大は八一mの前方後円墳である。特異な例としては、三ツ塚古墳群中の五〇m以上の二基の大型円墳で、これらは円墳としては県内最大規模の大洗町車塚古墳との関連性が窺える。埴輪は、比較的多くの古墳で確認できる。時期は、六世紀後半〜七世紀前半に多く、現時点では前期古墳は認められない。現在もっとも古いと思われるのは五世紀前葉の時期が推測される。それよりも古い時期の古墳は、那珂川対岸の大洗町や水戸市、新川対岸の東海村に存在する。

六世紀に入ると、太平洋岸以外にも古墳が出現する。六世紀中頃の古墳には、調査が実施された津田西山古墳群第一・三号墳と、鉾ノ宮古墳群第一・二号墳が、埋葬施設と出土遺物から当該時期と推定される。

た多くの古墳が造られるようになり、またその中には七世紀前半まで継続する古墳群(三反田・笠谷・大平・殿塚・老ノ塚古墳群)もある。三反田古墳群と笠谷古墳群、大平古墳群には、それぞれ埴輪を樹立する前方後円墳(三反田一号墳、笠谷六号墳、大平黄金塚古墳)と、樹立しない前方後円墳(三反田二号墳、笠谷七号墳、大平一号墳)が存在する。茨

城での埴輪の樹立は六世紀末まで、前方後円墳の築造は七世紀前葉までと考えられている。

文 埋 センターの 日 々 2012 前期

4月

「虎塚古墳 一般公開」／5 東海村環境を調べ隊見学」



ひたちなか市新人研修／藤本武氏
寄贈資料受入「大田房貞石器ほか」／
5-8 虎塚古墳 一般公開／21 浅間
縄文ミュージアムへ資料貸出「乳飲
み子を抱く埴輪」／22 虎塚古墳点検／
24 中川裕喜氏（茨城県自然博物館）資料
調査「三反田蛭塚貝塚貝輪ほか」／市毛小
学校へ資料貸出「井上コレクション縄文土
器ほか」／25-26 岡田遺跡試掘調査
／27 市毛小学校より資料返却

5月

9 津田小学校6年生社会科見学」
11 フジクラブ見学／12 鷹ノ巣遺
跡本調査開始／15 那珂市菅谷西
小学校6年生社会科見学／18 遺



跡めぐり／20 第9回企画展「横穴
墓の世界終了」／23 中根小学校6
年生社会科見学／25 佐野小学校
6年生社会科」学



26 ワンケースミュージアム23「平
成23年 市内遺跡発掘調査速報展」
開始
6月
5 中根小学校3年生社会科見学／
5-8 岡田遺跡試掘調査／6 銚田市
旭東小学校6年生社会科見学／7
中根小学校出張授業「勾玉づくり」



8 那珂湊第三小学校6年生社会科

見学



質問対応中根小学校6年生」



敷地内放射線測定／13 外野小学
校3年生社会科見学／14 田彦小
学校3年生社会科見学／17 岩宿
フォーラム資料見学「後野遺跡細石刃
ほか」／19 横浜市歴史博物館企画
展より資料返却「オオツノハ製貝輪」
／21 ミュージアムパーク茨城県
自然博物館企画展「不思議いっば
い！貝たちの世界」蝸牛から鳥賊・蛸ま
で」へ資料貸出「三反田蛭塚貝塚貝輪ほか」
／26 高野小学6年生社会科見学
／29 村山重雄氏寄贈資料受入「新
潟県新発田市宮地遺跡採集石器」
7月
6 小澤重雄氏（茨城県立歴史館）資料調査
「乳飲み子を抱く埴輪ほか」／6 那珂市芳
野小学校6年生社会科見学／8 7

虎塚古墳 花便り

9 ハマナス

五月に入ると、虎塚古墳への森の入口近くで、赤い花を見かけるようになります。それが「ハマナス」です。

ハマナスはバラ科バラ属の落葉低木です。名前は、海岸の砂地に生え、形がナシに似た実を付けることからついた「ハマナシ」という名がなまったものといわれ、ナスに由来するものではないそうです。花は五月から八月に赤い花を咲かせ、八月から十月には真っ赤な実を結びます。日本では北海道に多く、南は茨城県や島根県まで分布し、とくに北海道の襟裳岬や京都府の天橋立などが名所として知られます。この花は、北海道の道花であり、鹿嶋市の市花でもあります。

私がこの花の名前を聞くと、学生時代に買った青森と札幌を結び夜行急行列車「はまなす」を思い出します。明日から始まる北海道の旅に思いを巡らせ、その興奮からほとんど眠れなかった車内を思い出させてくれる、そんな花です。

（稲田健一）



2005.5.17

ンケースミュージアム23終了／10平磯小学校6年生社会科見学／**二鷹ノ巣遺跡本調査終了**／脇山佳奈氏（広島大学大学院生）資料調査（磯崎東古墳群珠文鏡）／14茨城キリスト教大学博物館実習施設見学／18茨城新聞取材（十五郎穴横穴墓群）／22ふるさと考古学①「楽しい考古学」(講師・さかいひろこ氏)／24-25赤坂遺跡試掘調査／28ワンケースミュージアム24「須恵器の土と神の山」開始／ふるさと考古学②「土器の考古学1」(講師・佐々木義則)／29ふるさと考古学③「土器の考古学2」(講師・綿引逸雄氏)／31大洗第一中学校職場体験／**三反田新堀遺跡試掘調査開始**

8月
 1大洗第一中学校職場体験／**三反田新堀遺跡試掘調査終了**／4ふるさと考古学④「貝の考古学」(講師・黒住耐二氏)／5ふるさと考古学⑤「住居の考古学」(講師・稲田健)



7-9東石川新堀遺跡試掘調査／17滋賀県ミホミュージアム秋季特別展「土偶・コスモス」へ資料貸出（三反田堀塚貝塚ハート形土偶）／22-28川子塚西古墳群試掘調査／22-28博物館実習（茨城キリスト教大学・茨城大学・筑波大学）／26ふるさと考古学⑥「土器の考古学3」(講師・綿引逸雄氏)／31震災破損資料修復へ

9月
 4那珂市沼田三次氏よりイノシシ寄贈

5佐藤渉氏【学芸大学学生】資料見学【十五郎横穴須恵器】／7平磯学習センター見学／9ワンケースミュージアム25終了／二常陸太田市世矢J&J同好会見学／11-13西中島遺跡試掘調査／13岩宿博物館企画展「人が動く、時代も動く」東日本の細石刃文化を追う」へ資料貸出（後野遺跡細石刃ほか）／14浅間縄文ミュージアムより資料返却／18-27上馬場遺跡試掘調査

19イノシシ骨格標本作製／19-20



入館者状況 (2012.4.1～2012.9.30)

月	開館日数	個人		団体		計
		(人)	(団体)	(人)	(人)	
4月	26	1039	4 (0)	105 (0)	1144	
5月	26	362	8 (4)	463 (406)	825	
6月	26	173	11 (6)	726 (669)	899	
7月	27	238	7 (3)	259 (109)	497	
8月	26	305	13 (1)	170 (2)	475	
9月	26	152	3 (0)	69 (0)	221	
合計	157	2269	46 (14)	1792 (1186)	4061	

()内は学校数

ひたちなか市埋蔵文化財調査センター及び(財)ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社が開催する事業は『ひたちなか市報』及び下記のホームページでお知らせいたします。
<http://business4.plala.or.jp/h-lcs/>

29ワンケースミュージアム25「古墳時代の色ー色の考古学ー」開始
 ／茨城県立歴史館特別展「霞ヶ浦と太平洋のめぐみー塩づくりー」へ資料貸出【沢田遺跡木製品ほか】



東石川内後遺跡試掘調査／26茨城県自然博物館より資料返却／27平磯小学校出張授業「火起こし」



編集後記の
笑う埴輪

博物館実習生がモデルの「女子大生と装身具」シリーズ第三弾をお届けする。くどいようだが、モデルの表情に甲乙は付け難く、撮影地に選んだ虎塚古墳の木漏れ日が、採否の写真を分けたにすぎない。一方で、ずば抜けた丙ともいえる男子大生が、シリーズとは無関係ながら「審査員特別賞」(六頁)に輝いた。額から流血したプロレスラーを、出来損ないのハクション大魔王とデビルマンが囲む。そのような不思議な組合せの仮装だと思っていたのだが、彼らにもそれぞれ参考にした埴輪があるという。プロレスラーは、標本陳列室に展示された「井上廣明コレクション」の武人埴輪が原型であるらしい。いずれにしても、モデルの全員に笑みをもたらした効果は「特別賞」に値する。

塚廻り三号墳の巫女埴輪の首飾りを忠実に真似るならば、ガラス玉も連ねたくなるが、遺物の保護を考慮し、それは控えざるを得なかった。脆弱な状態のものも少なくないのだ。今回の企画の実現までには、副葬品の性差という視点から日本の古墳を研究したスロヴェニアの留学生ベトラさんからもご教示をいただいている。感謝とともに、日本語で書かれた彼女の論文に「努力賞」を献じたい。



(2012.8.29)



ひたちなか埋文だより 第37号

編集 財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社

2012年10月31日発行

発行 ひたちなか市埋蔵文化財調査センター

〒312-0011 茨城県ひたちなか市中根3499 TEL 029-276-8311 FAX 029-276-3699

印刷 株式会社 高野高速印刷

表紙のモデルは照沼沙保里さんです。